

山形県天童市田麦野地区における モデル事業（地域管理構想）の取組概要

- 令和3年度より、山形県天童市田麦野地区において地域管理構想のモデル事業の取組を開始
- 令和4年度に3回のワークショップを実施し、地域の現状や各住民の思いを共有するとともに、強みや資源を活かした取組を互いに提案
- 令和5年度に7回のワークショップを実施し、土地の利用の方向性やテーマ別に具体的な取組について検討、農地に関する管理構想図を作成し、地域管理構想（田麦野みらい計画）を策定（R6.3）

■対象地域：山形県天童市田麦野地区

■地区概要：

- 位置：天童市東部に位置する中山間地域（標高約350m）。天童駅（奥羽本線・山形新幹線）から約10km（車で20分程度）
- 人口等：人口141人、71世帯、高齢化率59.6%、若年人口率0%（R3.11末）
- 地形：中央に押切川が流れ、東に奥羽山脈が位置し三方を山に囲まれている。棚田を中心に稲作やそばづくりが行われ、地区の東部には自然豊かな天童高原が広がる。

- 検討体制：天童市担当課（市長公室・農林課・都市計画課）、田麦野公民館



棚田風景（やまがた棚田20選）



天童高原スキー場



【モデル事業の実施に至った経緯】

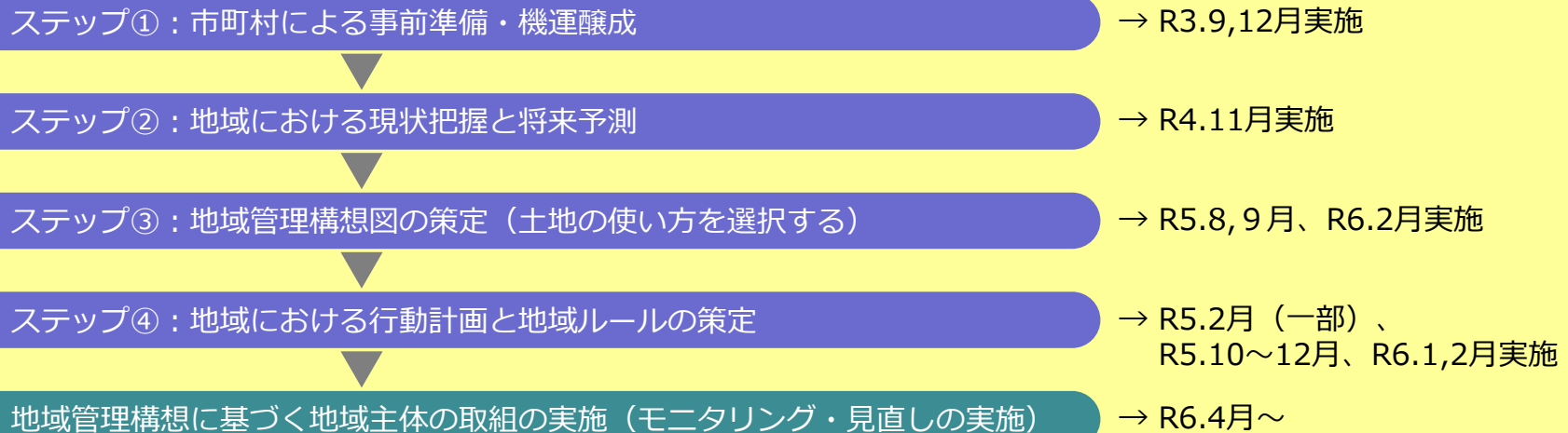
天童市の職員が、令和3年に国土交通省が実施した国土交通大学の「国土利用計画研修」に参加。研修後の国土交通省との意見交換において、「田麦野地区は高齢化が進み、地域の資源である棚田の保全も難しくなっている。地区の将来を考え、地区の了承が得られれば地域管理構想の策定に取り組みたい」と天童市より申し出があった。

その後、天童市が地域住民に意向を確認したところ、地域からも前向きな意向が示されたため、令和3年度より、田麦野地区において地域管理構想の策定に向けて検討が開始された。

【モデル事業の取組の経過】

- ・ R3. 9月～ ○天童市役所が地域に対して地域管理構想の取組の概要や必要性等を説明。取組実施の合意
- ・ R3.12月 ○地域住民（公民館長、区長 等）・天童市・国交省の意見交換会
：集落の様子等の情報交換、取組の方向、ワークショップ開催に向けた意見交換 等
- ・ R4. 8月 ○第1回ワークショップ（目的と現状の共有）
- ・ R4.11月 ○第2回ワークショップ（田麦野の現状と今後について①）
- ・ R5. 2月 ○第3回ワークショップ（田麦野の現状と今後について②）
- ・ R5. 7月 ○第4回ワークショップ（報告会、分科会のテーマ決め）
- ・ R5. 8・9月 ○第5回ワークショップ（検討会、現状の共有と取組方向の検討）
- ・ R5.10月 ○第6回ワークショップ（検討会、今後の進め方、優先順位の検討） ★地域のみで開催
- ・ R5.12月 ○第7回ワークショップ（検討会、今後取り組む具体的な内容の検討）
- ・ R6. 1月 ○第8回ワークショップ（検討会、今後取り組む具体的な内容の検討） ★地域のみで開催
- ・ R6. 2月 ○第9回ワークショップ（検討会、今後取り組む具体的な内容と管理構想図の検討）
- ・ R6. 3月 ○第10回ワークショップ（地域管理構想完成の報告会）

【地域管理構想の策定プロセス（策定の手引き参照）と、田麦野地区における検討実施時期】



【地域管理構想（田麦野みらい計画）の構成】

		各項目の記載内容と 手引きの内容との対応
1. はじめに 地域の課題／策定の経緯		
2. みらい計画の使い方 みらい計画をどう使っていくか（進捗管理の方法）		進捗
3. 地域について考える 地域の強み・弱み／活用可能な資源／今後不安なこと		現状
4. 取組の方向性と行動計画 テーマごとの行動計画表（活動内容、実施主体、着手時期）		取組
5. 空き家の取組について 取組方針（何をするか）／実施主体の役割／みなさんへのお願い（地域のルール）／空き家の現状（図）／空き家関連の補助事業	方向	ルール 現状
6. 農地の取組について 取組方針（何をするか）／管理構想図（農地）／農地の現状（耕作意向図）／農地の関連団体・制度	方向	現状 構想図
7. 生活環境の取組について 取組方針（何をするか）／実施主体の役割／みなさんへのお願い（地域のルール）		方向 ルール
8. 資料 検討の記録／行動計画整理表（今後の活動の参考アイデア）		取組

地域管理構想に記載する内容
（策定の手引きより）

①地域の現状と将来予測

②地域全体の
土地利用の方向性

③管理構想図

④行動計画表

⑤地域としてのルール

⑥取組の進捗管理体制

※赤枠で囲った「4」～「7」は、次頁以降に活動内容を紹介

- ・ 「空き家」「農地」「生活環境」を今後重点的に取り組むテーマとして設定（住民アンケートより）
- ・ 各テーマの検討会で話し合いを重ね、地域としてどのように取り組んでいくかを行動計画としてまとめた

【行動計画表（令和6年3月）】

活動内容	実施主体	着手時期		
		R6	R7	R8
【空き家の取組方針】 空き家の所有者を支援し、移住者の受け入れを促進する。				
令和6年度中に地域内の賃貸物件を新たに2つ以上つくる。	空き家検討会	●		
賃貸・売却・活用の意向があった所有者を空き家バンクや市空き家相談窓口へつなぐ体制をつくり、持続的に支援する。	空き家検討会	●	●	●
天童市の空き家関連の補助金額を、中山間地域の実情に合った金額へ引き上げる要望を市へ提出する。	空き家検討会	●		
他地域で実施実績がある「お試し滞在施設」「移住促進住宅」等の事業を天童市でも実施する要望を市へ提出する。	空き家検討会	●	●	
【農地の取組方針】 農地を守っていくため、より具体的な行動計画を作成する。				
積極的に維持するエリア、手のかからない方法で管理するエリアをどのように守っていくか検討する。（担い手確保、新たな作物、共同管理の可能性など）※管理構想図を参照	農地検討会	●	●	
土地情報（水源・水路など）を整理する。	農地検討会	●		
農地における地域のルールを作成する。	農地検討会	●	●	
中山間地域等直接支払制度の交付金の次期（第6期・R7～11年度）について検討する。	集落協定	●		
農地所有者全員に「田麦野みらい計画」の内容を共有する。	集落協定	●	●	●
【生活環境の取組方針】 いきいき輝く地域を目指し、マルシェを開催する。				
山菜の時期に第1回マルシェ「たむぎのでした～」を開催する。	生活環境検討会	●		
定期的にマルシェを開催し、地域に人を呼び込む。	生活環境検討会	●	●	●
地域内で飲食できるところ（食堂、菓子の販売、キッチンカーの誘致など）を設置できないか検討する。	生活環境検討会	●	●	

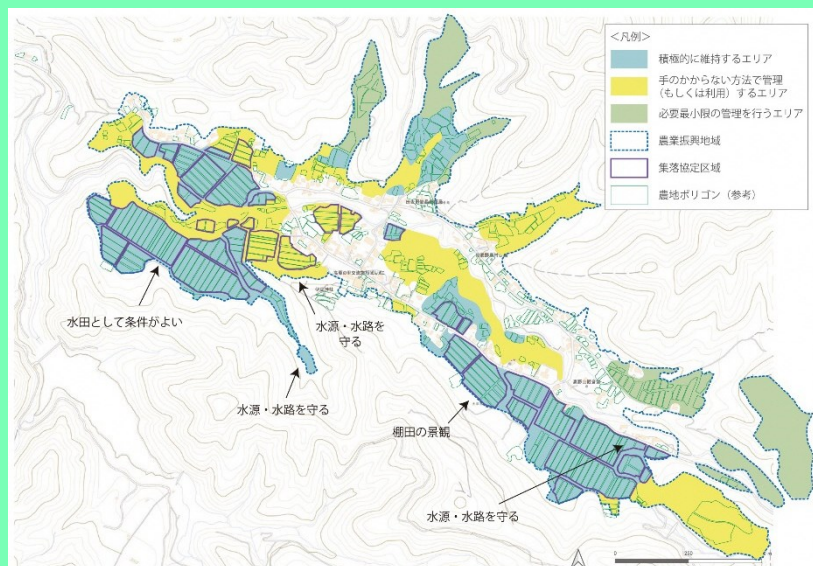
- 「管理構想図を作る」ことをメインに検討
- 「空き家」「生活環境」のように「具体的な行動計画」「地域のルール」の検討までは至らなかったが、これらを次年度以降引き続き検討すること自体を「方針」及び「行動計画」に位置づけ

○取組方針：**農地を守っていくため、より具体的な行動計画を作成する**

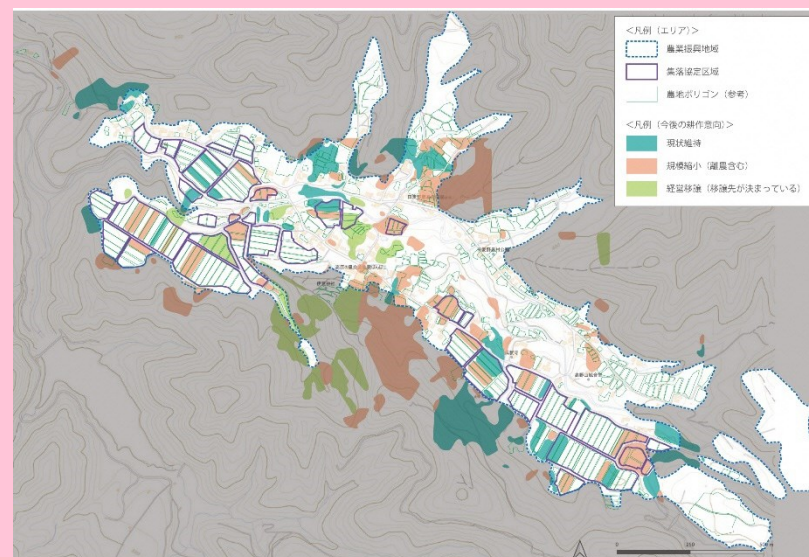
○取組の内容：**地区の農地の未来像を具体的に検討する**

- 管理構想図（農地）で塗り分けたエリアを守るために、耕作地を維持する観点から今後の管理方法を検討
- 検討した内容をもとに、地域の方々及び関係者に協力を呼びかけ

○管理構想図（農地）



○農地の現状（耕作意向図／令和5年現在）



- 令和5年度後半より天童市で検討が開始された「地域計画」のうち、田麦野の部分については、管理構想図（農地）の作成過程で、先行的に検討作業を実施。後々必要となる地域計画の検討作業の省力化につなげるべく、作業結果をどのように計画に反映させるかを意識しつつ検討を進めた。

- 管理構想の本来意図するところの「土地の管理」には触れていないが、「空き家」「生活環境」は今後地域で取り組むべき重要なテーマ
- 今後の取組方針を定め、主として具体的に取り組む行動計画を、管理の内容に限らず幅広く検討
- あわせて「みなさんへのお願い」として、地域としてのルールを明示

【空き家の取組について】

○取組方針：空き家の所有者を支援し、移住者の受け入れを促進する

○実施主体の役割

- 意向を聞く → 空き家の所有者に対し、意向の聞き取りを継続的に行う
- つなげる → 「売る」「貸す」「活用」という意向のある所有者を、相談窓口や空き家バンクにつなぐ

○みなさんへのお願い（地域としてのルール）

- 将来について家族と話を
- 定期的に家の手入れを
- きちんと相続の手続きを

○田麦野地区の空き家の現状

- 地区内の空き家の現状、管理の状況等を調査し、空き家現況図として地図化

【生活環境の取組について】

○取組方針：いきいき輝く地域を目指し、マルシェを開催する

○実施主体の役割

- マルシェをひらく → マルシェの実施主体となるサークルを結成、マルシェを開催
- 他の検討会との連携 → 産直、会場としての空き家活用など、アイデアを他の検討会と連携しながら実現

○みなさんへのお願い（地域としてのルール）

- マルシェにご協力を

➤ 取り組んだことによる成果

管理構想図による問題の共有

- 農地の取組など、先行きが見えない部分はあるものの、管理構想図（農地）により情報が可視化・整理され、農地所有者や関係者以外の住民にも問題が共有されたことはよかった。
- 管理構想という一つの形が生まれたことに意義があり、この取組が今後に向けた良いきっかけとなることを期待したい。

みんなで取り組む体制の構築

- 地元住民だけでなく、移住者、女性、少数だが若手、行政職員も含め地域課題を考えることができ、組織で取り組む体制を作ることができた。
- 地区としての明確な目標とともに、懇談会を通じて各自の思いが確認できた。住民同士の連携は強まったように思う。
- 住んでいる方々、関わっている方々が、顔を合わせて話し合うことが大事だったと感じている。

➤ 今後の課題等

今後の取組の展開

- 地域全体の課題は見たが、その後の具体的な行動に関わる人はまだまだ限られており、広がりを見出せていない。今後、取組の広がりとともに、どのように展開していけるか、事務局としての采配も必要と感じている。

外部からの支援の必要性

- 伴走してくれる行政職員や、意見を引き出してくれるファシリテーターがいないことには、話し合いの場が成り立たなかったと感じている。
- 空き家及び生活環境の取組については一つの着地点が見えたが、農地に関しては依然先ゆき不透明の部分もあり、地域での検討だけでなく、引き続き何らかの支援があればと感じている。
- 地域の皆さんが将来を真剣に考え、美しい景観が資産だということに改めて気づくなど、次世代に残そうという意思をもって策定に取り組んだのは大きなこと。市職員として、今後も側面支援をしていきたい。

考え方のギャップへの対応

- 行政と地域の考えにギャップを感じるが多々あった。

田麦野の「みらい」を考える懇談会

地域の現在と将来の課題について考える【ステップ②】

地域における行動計画の作成【ステップ④】

- 参加者 : 地域住民等
アドバイザー : 高橋信博氏 (山形県農村づくりプロデューサー)
協力 : 山形県農山漁村地域づくりプランナー
- ※運営スタッフ : 天童市役所 市長公室 (農林課、都市計画課も参加)、田麦野公民館、コンサルタント、国交省

○各回の話し合いの内容・テーマ :

【第1回】目的と現状の共有

- ・今回の取組について期待すること、今回参加するにあたっての感想、参加動機
- ・地域で行われている活動やアンケート結果を聞いてみての感想

【第2回】田麦野の現状と今後について①

- ・田麦野の強みや弱み、活用可能な資源、今後不安なことを共有しよう

【第3回】田麦野の現状と今後について②

- ・田麦野の強み・活用可能な資源を守り活かしながら、弱み・今後不安なことを改善していくための提案を考えよう

【第4回】報告会、検討会のテーマ決め

- ・第3回懇談会の結果と行動計画整理表の手渡し式
- ・その後に進んだ取組についての報告
- ・検討会で具体的な取組を検討するにあたってのテーマ選択

- ・当初、地区で土地に関する話し合いを直截に行うことへの懸念があった。そのため、手引きに示されたステップとは異なるものの、少しでも前向きな議論が行われるよう、会の雰囲気づくりに配慮し、テーマを「土地」に限定せず、土地以外のことも含めた幅広い内容から話し合いを開始した。



第1回懇談会の様子



第2回懇談会の様子



第3回懇談会の様子



第4回懇談会の様子

田麦野の「みらい」を考える懇談会

地域の現在と将来の課題について考える【ステップ②】

○参加者の感想例 (第1回)

- ・ 気づきがあった
- ・ 若い人、普段会わない人も含めて皆さんの意見を聞くことができた
- ・ 次回も参加したい。期待している
- ・ 言いづらいこともあるが、どんどん意見を言いたい
- ・ もっと若い人の参加者を増やしたい

○ワークショップでの意見例

(田麦野の強みについて/第2回)

- ・ 棚田の景色の良さ
- ・ 水がきれい
- ・ 星空がきれい
- ・ 地域を管理する住民の努力、団結力
- ・ 何かに取り組むときの地域の行動が早い
- ・ 大学生との活動や交流があること

地域における行動計画の作成【ステップ④】

○参加者の意見例 (第2回結果を踏まえた提案を行動計画整理表として整理/第3回)

計画反映	項目	着手時期			役割分担・主体						実施移行時点での留意点や障害など	継続評価	具体的中心組織(連携する相手)		
		すぐ	5年以内	時間をかけて	個々の住民	組織や団体	地域ぐるみ	組織間連携	地域間連携	行政と連携				行政	
	棚田を保全するための草刈りを地域で行うため、農業法人・企業を立ち上げ、農地の保全、生産、販売をビジネス化する(仕事として、アルバイトとして)	○													
	棚田の保全を守っていく(おいしい米を作っていく)	○													
	棚田米の米粉を使ったお菓子の販売	○									○				地元のお菓子作りの上手な人

○ワークショップの成果例 (第4回)

- ・ 第3回の成果(提案)を分類し、検討会で具体的な取組を検討するに当たってのテーマ選びを実施

【テーマ候補】

- ①空き家
- ②農地
- ③里山・森林
- ④生活環境の整備
- ⑤外部への発信
- ⑥地域力

地区住民全員の事前投票から、多い順に

- ②農地、①空き家、④生活環境の整備、③里山・森林、⑥地域力、⑤外部への発信となり、上位3テーマを検討会テーマとして決定

田麦野の「みらい」を考える 懇談会検討会 (空き家、生活環境)

地域の現在と将来の課題について考える【ステップ②】

地域管理構想図の策定 (土地の使い方を選択する) 【ステップ③】

地域における行動計画と地域ルール of 策定【ステップ④】

- 参加者 : 地域住民等 (各検討会の参加者は10名程度)
アドバイザー : 高橋信博氏 (山形県農村づくりプロデューサー)

- テーマ別の各回の話し合いの内容 :

空き家 (検討会 / ★は地域のみで開催)

- 【第1回】空き家についての『提案』を出し合い、所有者への意向アンケート調査の実施を決定
- ★【第2回】意向アンケート調査の結果共有、「所有者支援」の方向性を決定
- 【第3回】地域としてできる「所有者支援」についての検討
- ★【第4回】空き家関連補助事業の勉強会を実施、追加で実施した意向アンケート調査の結果共有、「田麦野みらい計画」内の行動計画表及び空き家の取組についての記載内容の検討

生活環境 (検討会 / ★は地域のみで開催)

- 【第1回】生活環境について『提案』を出し合う
- ★【第2回】今後メインに取り組む事柄を「生きがいづくり」に決定
- 【第3回】マルシェの実施を決定、場所・時期・主催団体等についての検討
- ★【第4回】「田麦野みらい計画」内の行動計画表及び生活環境の取組についての記載内容の検討、会則の検討、マルシェの具体的な内容の決定



空き家第3回の様子



生活環境第1回の様子

- モデル事業のプログラムとして設けた今年度の懇談会 (3つの検討会) では検討しきれなかった内容や、次年度以降の地区の取組を進めるために必要な話し合いの場として、地区住民のみで自主的な検討会も複数回開催され、管理構想の取組を補完する役割を果たした。

